

# 2018年度(平成30年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

〈学校用〉

校番(33)番 福山市立 至誠 中学校

## 1 育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)

育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)	「言語・数量・情報」	「問題解決力」「情報活用力」	「コミュニケーション能力」「主体性・協調性」
めざす子ども像 (21世紀型“スキル&倫理観”を身に付けた生徒の姿)	・基礎的・基本的な知識・技能をもとに、他者との交流の中で自分の考えを深めたり、論理的に表現したりする力を身に付け、地域や自分の将来に活用していくことができる。	・知識・経験・社会状況を関連付けて課題を発見し、計画的に取組み、課題の過程や結果を評価することができる。 ・多角的に収集した情報を分析・評価し、簡潔で説得力のある内容にまとめ、効果的な方法を工夫して発信することができる。	・集団や他者の中で、互いにより部分を引き出しながら建設的な関係をつくることができる。 ・課題に向け合うことで自らの責任を果たし、他者と協働して問題解決し、その結果に責任をもつことができる。

## 2 授業の現状

- ・生徒は落ち着いて与えられた課題に取り組んでいるが、主体的で深い学びが成立しているとは言い難い。
- ・授業の中で基礎・基本が定着していない生徒への支援ができておらず、学習意欲の低下につながっている。

転換

## 3 めざす授業の姿

- ・知的な好奇心・課題意識から出発する、生徒にとって学びが面白い授業。
- ・ねらいとまとめ・振り返りが一貫し、「わかった」「できた」が実感できる授業。
- ・教科を超えて基礎的・基本的な知識・技能をつなぎ・活用して問題解決をする授業。

## 4 めざす授業に向けた取組の具体

4月からの取組	8月末の状況	9月からの取組	12月末の状況	1月からの取組	2月末の状況
○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・ねらいとまとめ・振り返りの一貫性 ・家庭学習の習慣化 ・入試や調査問題の結果分析を生かした授業改善 ・問題解決型の授業づくりのための授業研究 ○主体的・協働的に課題解決に取り組む総合的な学習の創造 ・地域・外部講師との連携 ・情報活用のスキルアップ ・地域への貢献意識の醸成	○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・授業始めに前時の確認・復習を丁寧に行うとともに、セミナー・自主ノートなどの確認・評価を行い、基礎・基本の定着に努めた。 ・校内研修会で生徒の興味・主体性を喚起する提案授業を行った。問題解決を評価の視点として、毎月10分間参観を実施している。 ○主体的・協働的に課題解決に取り組む総合的な学習の創造 ・福祉体験(3年)、チャレンジウィーク(2年)、外部講師(1年)などで地域と連携した。 ・地域貢献意識88%	○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・生徒が目標と意欲をもって取組み成果を実感できるよう、引き続き家庭学習の確認・評価を確実に実行していく。 ・「全国学力」の結果分析を踏まえ、活用力を育てる教材開発や活動の工夫に努める。 ○主体的・協働的に課題解決に取り組む総合的な学習の創造 ・生徒実態に応じて昨年度の指導計画を見直し、生徒が意欲と見通しをもって活動に取り組む、地域への貢献意識が高まるようにする。 ・「育てたい資質・能力」をふまえた活動・評価を通して課題解決力を育てる。	○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・家庭学習時間の目標達成率は84%。宿題は放課後学習で確実にやり切らせるよう指導した。 ・校内研究授業1回、月初めの10分間参観を実施し、問題解決型の授業づくりについて研修した。 ○主体的・協働的に課題解決に取り組む総合的な学習の創造 ・1年は産業振興課の事前授業を実施、3年は小学校訪問を実施し、平家谷PR動画をHPで発信。各学年PCで「学習のまとめ」を作成中。 ・「ふるさとが好き」93%、「地域に貢献したい」87%。	○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・来年度の「全国学力」に向けての取組み計画を立てる。 ・「生徒主体の学び」など教育の動向を踏まえた研修を実施する。 ○主体的・協働的に課題解決に取り組む総合的な学習の創造 ・1年:ドリームマップ、2年:修学旅行のまとめ、3年:卒業レポートを行う。 ・1年間の学習のまとめをし、「育てたい資質・能力」を踏まえた振り返りをする。 ・各学年の取組みをHPで発信するとともに、研究2年目の成果と課題を整理する。	○基礎・基本の定着と活用力の向上 ・来年度の「全国学力」に向けて、目標を決め、年度内に取組みを始める。 ・主体的・対話的で深い学びのイメージの共有化が不十分。授業改善に結びつく研修をする。 ○主体的・協働的に課題解決に取り組む総合的な学習の創造 ・計画通りに実施したが、実践をこなすことに追われ、「育てたい資質・能力」と活動内容・評価・振り返りに一貫性がないのが課題。来年度に向けて、学校全体としての共通性と系統性の視点から内容・方法を検討する。

## 5 取組の結果等

数値は2018年(H30年)調査等の状況

全国学力・学習状況調査(%)

	A問題	B問題
国語	84(+8)	68(+7)
数学	75(+9)	50(+4)
理科	71(+4)	69(+4)

( )は県平均との差

「基礎・基本」定着状況調査(%)

	タイプI	タイプII
国語	( )	( )
数学	( )	( )
理科	( )	( )
英語	( )	( )

「基礎・基本」定着状況調査(生徒質問紙調査)(%)

内容	国語		数学		理科		英語	
	よく	やや	よく	やや	よく	やや	よく	やや
授業が分かる	33.3	60.0	50.0	36.7	20.0	36.7	53.3	20.0
学校が楽しい	100							

体力づくり改善計画【広島県体力・運動能力調査から】

県平均以上項目数	前回目標値に対する結果	重点課題	改善する取組内容・方法
(男子) 10/24	県平均に対して男女とも21項目記録を上回り目標を達成した。特に男女「20mシャトルラン」は男女とも全学年で県平均を上回った。	県・全国平均と比較すると、男女とも「上体起こし」「50m走」「立ち幅跳び」が、各6項目中5項目が平均以下となっていて重点課題である。	・各種目筋持久力、スピード、瞬発力に着目し、体育授業において体系的に体力づくり運動を実施する。また、部活動においても体育授業と関連付けて繰り返しのトレーニングを行う。
(女子) 11/24			
目標値	新体力テストにおいて、県平均を上回る種目を27項目以上にする。		

福山100NEN教育アンケート[対象:授業者](%)

質問項目	よく	当てはまる
仕事にやりがいを感じている	0	33
仕事に充実感がある	0	33

児童生徒アンケート(%)

質問項目	(12)月実施	
	当てはまる	少し
授業で考えることが面白い	65	35
自分の考えは、認められている	74	26